

絵本東物語
二冊

南杉楚満人
歌川豊衣画

C211

新

193

續本古

卷之三



序



漢風
ひそゆは 竜眠の人物 牧溪は 蘇軾は



とあはくは ぼるまひひらやま川小遺次

爰小浮世繪のう紀をた心地を色ど江都

むらぎ紀の深屋り軒を並ぶ音孺がらとの

歌川何某松根ぬ毫と擲きよかた沈

きくは日本魂の丹青以ぬきんで本

人忠下小多んと羅き後ハ韓大尉

の月より日吉の山五匹恵方と定わ

梅見月六趙子昂北の日の論平翁の
 坐小影見と後あるを隅田河忠提に
 魯趙昌々草木小月山の花多紙うは
 蕪東坡が竹芝小山門の樓閣紙より礪山
 みちれ彫るるハ圖士安が妙々紙添ふ丁野
 堂の菊月の神明の社跡小蜀れ薑の市と
 形一陳雨翁の金龍山小異道ふれ觀音紙
 現一々憲宗皇帝考れ孔雀菜亭とつす
 一々ハ一々唐画も乃るあ
 斧の柄のらちと一々の楚滿人の戲言紙
 桴ゆせんと老臥養ふ其泉堂の心ととて
 水莖のありふ文復のいつ紙一哥
 番匠の墨繩紙ひく新造作の二中友手介
 一々ん乃序文の板下小いろはは法帝の
 良找とえりて祝の礎とあともえるものハ

山陽堂



正月

惠芳泰

山王
權現

御江
才一

鎮守
之

氏子
多



二月

初午系はつひまきり

王子稻荷おうじいなり

當社あたらしや

東國とうこく

稻荷いなり

惣社そうじやの

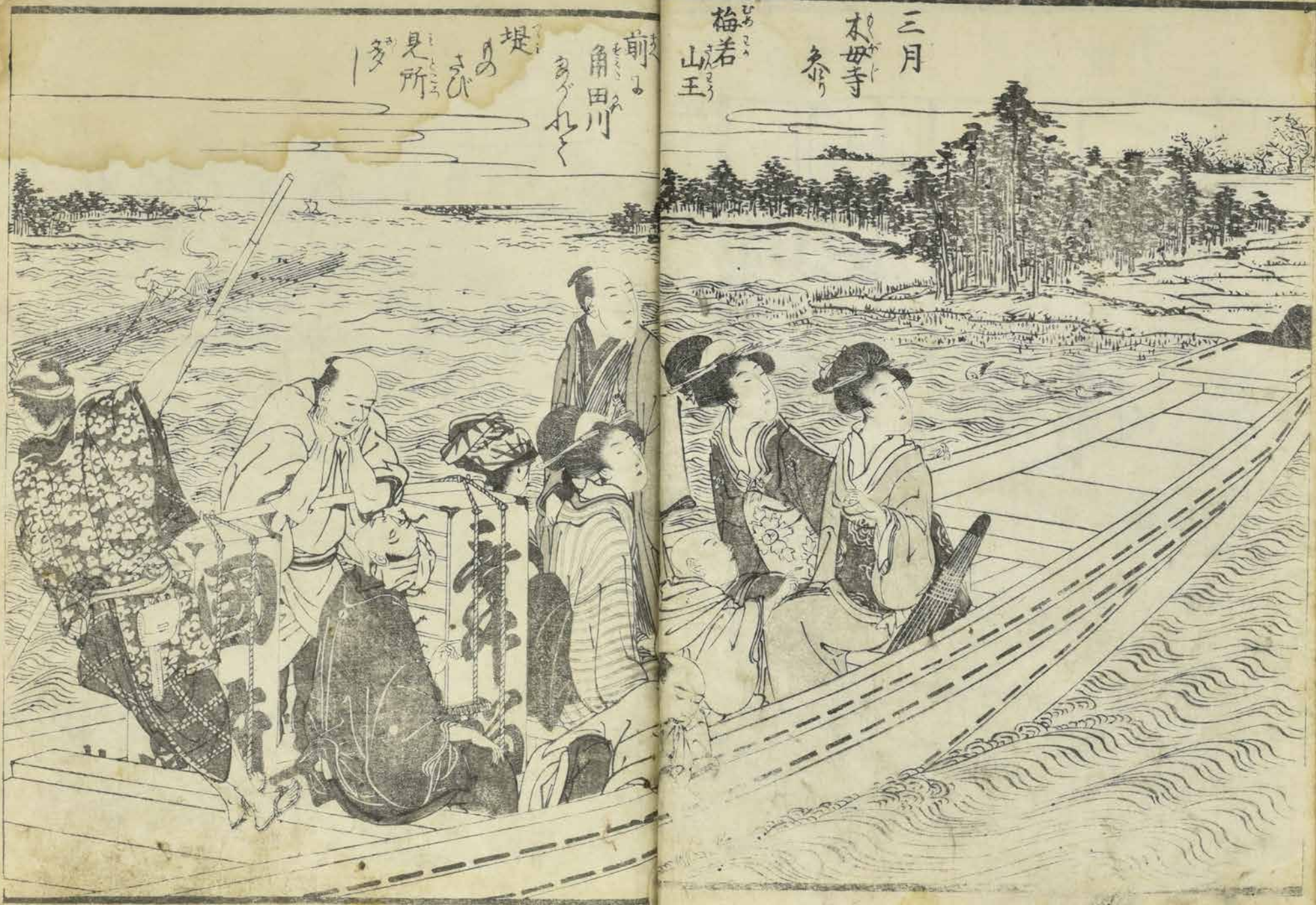
と

参詣さんぎ



三月
木母寺
糸
梅若
山王

前
角田川
堤
の
見所
多



四月 釋迦奈
三縁山

芝浦
安房
上總

見ろし
耳の
時鳥
の
聲
多



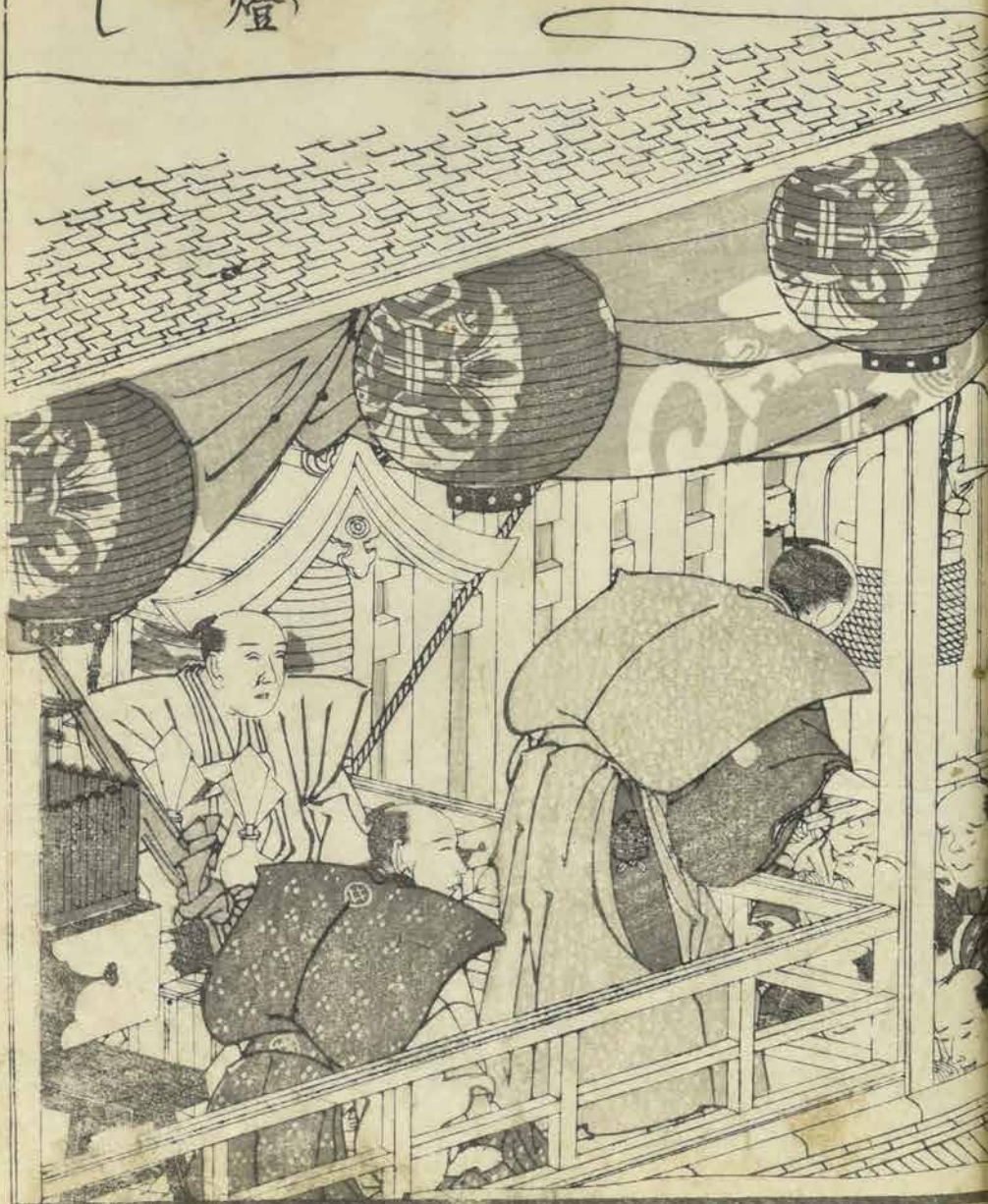
多
垢離
泉
二
の



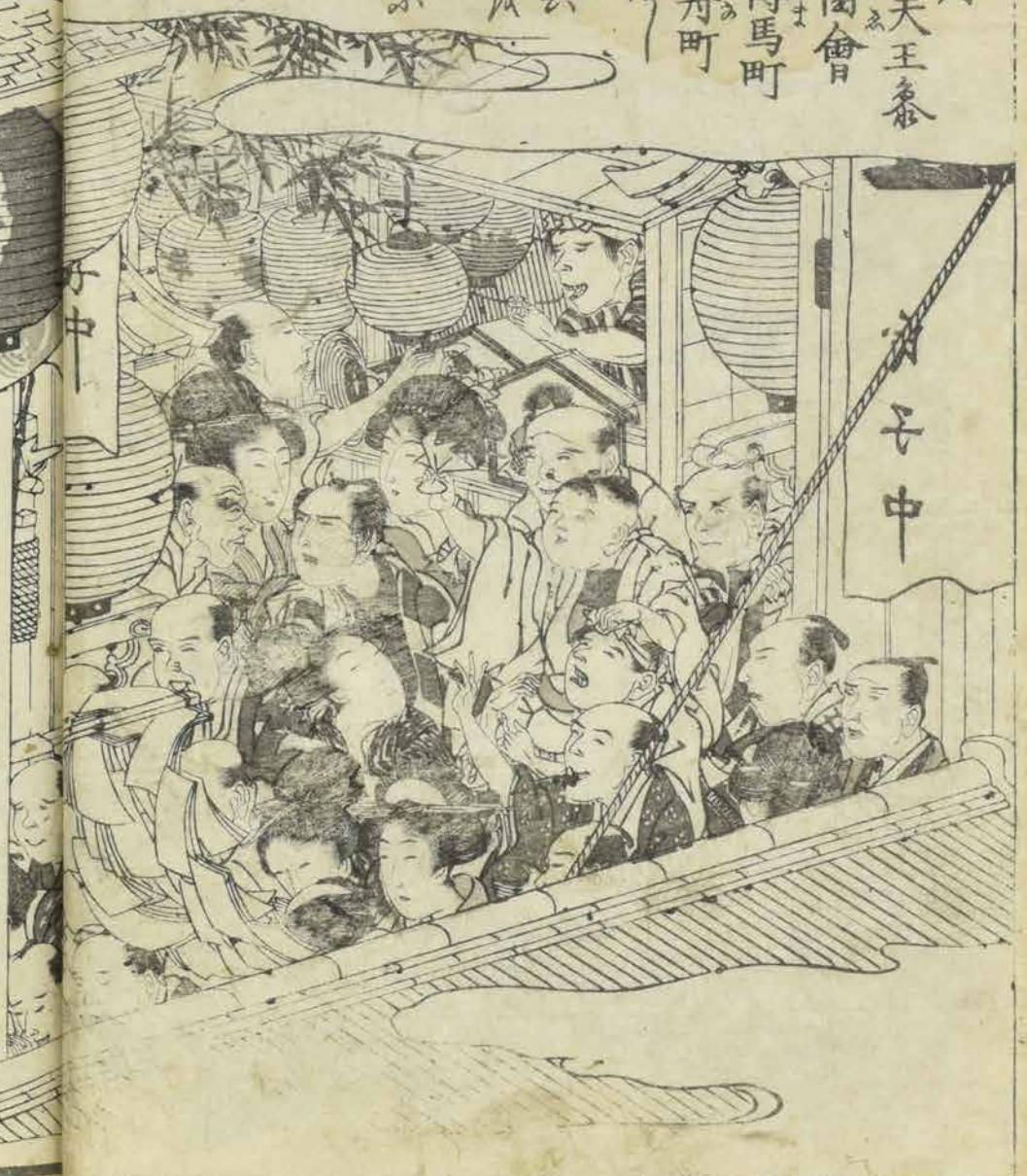
五月
目黒系
不動明王
餅
栗
土産
あり



繪云
多し
行燈



六月
天王系
祇園會
大傳馬町
小舟町
中は
神樂
仮り
屋お
奉
る



花の春を何—あるまじきことぞおのづから

人れおのづから—山標のふ見は清く

瀉の貝をうひ塾邊ハ嫁菜は清く

柙のふをのぞくは羽織るを

青傘世も出て西も東も北も南も人足も

何して屋臺見せも庭貴引張腰のふ二

三の向く庭蜘蛛のきつる蓋を—き

おのづからな山とく—柳田をまの薩摩

の焼く—多焼圓子長火鉞の如く

たわごんをばあて二十斗のちひの君を

かゝ見ると何れも口過り出来るか

ある人の絶間も何四十位は田舎旅人

六十斗な色の黒い達者そなた親仁と

心持をさるる若い男ももて菓子盆

きるれ茶碗のぬるひ茶を飲むか

是の男も女も蔵や源の助が評判

三郎木挽町と梨町と引張ある何んは後者

むしわらうありといふを側は君の親に

あつちあつちあつちの時よ親柏庭はあつち

あつちを助高屋は兼次郎富十郎は若盛又

角力取源氏山は碓山何んを若今時あつちとせ

るの吸売をいはいはるる若い男もあつちとせ

あつち昔のそれを何んとも雷電よあつちあつち

いはいあつちあつちあつちあつちあつちあつち

毒うを是つあつちあつちあつちあつちあつち

昔の役者も下もあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

軒があつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

昔の人よあつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

旅人まはりりり合点のまわりの旅人少くして居

るるるる例の親仁もむらひとく遠國者もて

まと言や大坂の見物あつてのゆゑお江戸を知らぬ

旅人今度遠く出まへ玉の出産ほど控えて

名所舊蹟名物を悉く賞へて思つた

教てゐる角と問うるも解き親仁もよく迷惑顔

あやのぢふは笑ひ出し「お江戸も七十年

住居はまれと只今を方角さへもさつたりあらま

其のぬのの葛花のあやこといふ物の内身あつた

お江戸のあやを咄し「まやう先御江戸の名物

中一番が紫染女師のいさど半たまゆ」と

河東ゆへ唐まをきこへ團十郎吾妻錦繪

紙多む入るみ燈心裏附せりさつさつは

冷飯草履沙も海苔も江戸前鰻新場

蛸は芝肴鎌倉鮎も羽根田の鱈玉川鱈

子竹の鮎河川鯉も佃の白魚芝雜魚

芝浦を金澤までと業平焼は宮台より中山

赤ん帯一匹四子敷鳴子の甘瓜浮田の丸漬青

山入ぐよ赤山生美越谷保朱餛西の小松菜

砂村南凡岩附葱草伽の烏芋藤澤松露

神奈川如駒よ駒込茄子行徳の干温鈍子魚の

大角豆鎌倉柴胡椒田の梅干煉馬大根松戸の

よふ金栗砂むくなは駿河よきけと二半の新

米土用よある其外所くの食物は塩漬漬漬

よ餅沙るの太佛もちき神明のた々餅金龍山の

何きを隣高狒々馬餅三田寺町の魚藍餅人形

町の鹿子もちと白銀の玉子餅沼川高河原金

焼筋遠よ三浦平隣屋るん地よ兩國餅麴町よ

助惣焼飯倉片町おらだんよ是はよか着らだん

大中通り毎園子よま今津の柏餅よ十貫道

白玉隣目黒の粟餅相屋の餡もちよ心か名は御所

おきよ南系落屋餅六煎餅てるよゆり町

仕切揚餅永代園子豊年餅井門の何ぞも山

屋豆腐はちやのあつ雪亀屋のなまやめ川

菜飯はゆんぶつそだ正直そんよ七色あやいふ

醴汁粉餅はあつ蕎麦、軒をまもぬおどろ

こぶし海月八橋二軒茶やむらじ嶋まいつひ

鯉王子はむびや下谷の濱田屋吉川の森月菴

ぎよらんのあぶすや江戸橋のまきや中橋海や系橋

紫登新橋の依倉屋大和田うかぶる冷木の蒲

焼真崎回樂をうら比のさる持は鈴本町の何ん

かきあんさん両國の油揚海屋親仁橋の芋酒

屋水道橋の鮎のむねお尻中橋のおまん鄭吉原

の眺の目線壹所は三三間の即席料理山のふもと

下町も深川も浅草も苔も麻布も高ーの見

せよ煮肴屋はひ夜も白晝のゆき釣鐘のふと木

合藏作りのかゝ店大晦りよ婚札をる者何まそ

元りく旅人通る家根うゝを樽きん屋形舟極

の巾衣きんぎょ敷持しきもち目玉めだまの入いれ之の鼻はなの継つぎたたくく白鬚しろげ深ふか

茶ちや上うへ下した入いれ齒毛はきげをを茶ちや子こ腎臟丹じんぞうたんなるなるももかかで

毛け志し高たかくく自在じざい又また江戸えど名な高たかきき高たか人ひとををあありりく

そそななくく中なか魚いししし次つぎ舟ふね石いし向むかひひ水みづ免めん留りゅうはは是こゝ服ふくをを

小こ駿河しゅんが町まち乃なり越後えちご屋や日本にっぽん橋はしのの白木しろぎ屋や尾張おわり町まち

ままゝゝ急いそぎぎままややのの急いそぎぎまま不ふてて也や新橋しんばしままのの坂さか也や傳でんるる

町まち大丸おほまる麴こうじ町まち乃なり水みづきき油あぶらをを馬ま喰く町まち藤井ふじいのの也や

本ほん々々のの伊豆いづ菘そう一いつ統とう長谷川ながせがわ町まちのの河か本ほんのの河か

つつああやや近ちか江え屋やかかしし也や沢ざいのの井い大だいらら也や其そののの海うみをを

肉にく田でん矢野やの小西せいの鹿嶋かじま玉川たまがわ鴻わづらのの池いけ何なにれれもも出で見みせせ彰あき

豊とよ嶋しま屋や乃なり白しろ酒しゅハハあありり前まへはは賣うりり高たか橋はしのの米こめ

新しん川がわのの斗と樽づんをを積つむののここ味あじ噌そう角かくままつつ口くち小こ原はら

むむとといいせせ也や角かく伊い勢せい屋や茶ちや葉はのの神かみ明あき前まへ大だい好こう庵あん

のの金きん粒りゅう丸まる下した谷や仲なかつ町まち錦にしん袋ふくろ圓まる志しをを田でん多たああののををんん

丹に笠がさののててれれんんととかかりりしし町まちのの堤つみ三さん藏ざう中なか橋はし

もも寶たから母はは散ちりををりり町まちはは虎とら也やののけけとと吉原きちげんのの船ふね乃なり

梅川兒の業いふ園の虎膽丸は作りの馬業千村
きりうぐん子業の丸業目業は作りのさや本町
のくさかつとも町の入にし歯がきつ丁子や喜屋
兼やさうぐん膏業は市のこ星と玉のかぶ
こししまつも夜のものかを成は百足伽羅の油は高所
ふ村山峰神明ままのたの落や太好庵も中下
丁子屋かじし町玉井番を所まははし町はももと
かんふ八浦まやのさる百助あらくのしし豊成

袋ぶる角越川庵よ本町やさや玉や白せり
治谷傳馬町神田の豊嶋所礎の鋸活や八佃高は
釜川に源川高嶋町の傘けは上りだ地張きる
地を種う今戸のほうゆく小梅の庵よつやとんま
若まつにゆおや橋の金花福赤黒江町の野員
淡草のそ屑吉原のかん物さししきのちを種さ梅
三嶋所のおゆりぶさるのさし海草れぬ一の粉
旗江町のさるを圓扇青物錦も秩又さ直真園

木綿の切子にのまん地岩付さう一足袋川紙よ

亀甲大の勢油八山十とまよ何そまひ中橋の雁皮

紙はまきうより何ぶやうよ箱毛のそうめん三輪あり

布そー一まの只くも芝神時ま本外屋れ

左利神火打本丸屋のきりとつ巻打物請合名さ

久次郎さまは御當地の警員と大川の茶舟

去る此四も駕口谷の馬は大本戸の半とよまた

もろり夫ハハのたり生物知りまきくまんまよとてい

如きもの忽地主となるまきく即座にまよとまよ

十兩の高し懐で自ら形或尺ま又のまりつ紙や

六文の懸織の紙て後世の出来がまのひの外國異

虫の珍物業行むとまよのまよし諸国の靈

佛の御南帳居れを飛ねがむかた下るふさ

まんとまのりわさうまう大物ん口まきり川

一物へのんて吐一や珠よ

山和文

d211

新

193

繪本魚物譜

珍
二冊ノ目次
15



七月

廿六夜

今宵

高輪乃

茶屋

男
女

あめ

月の

生

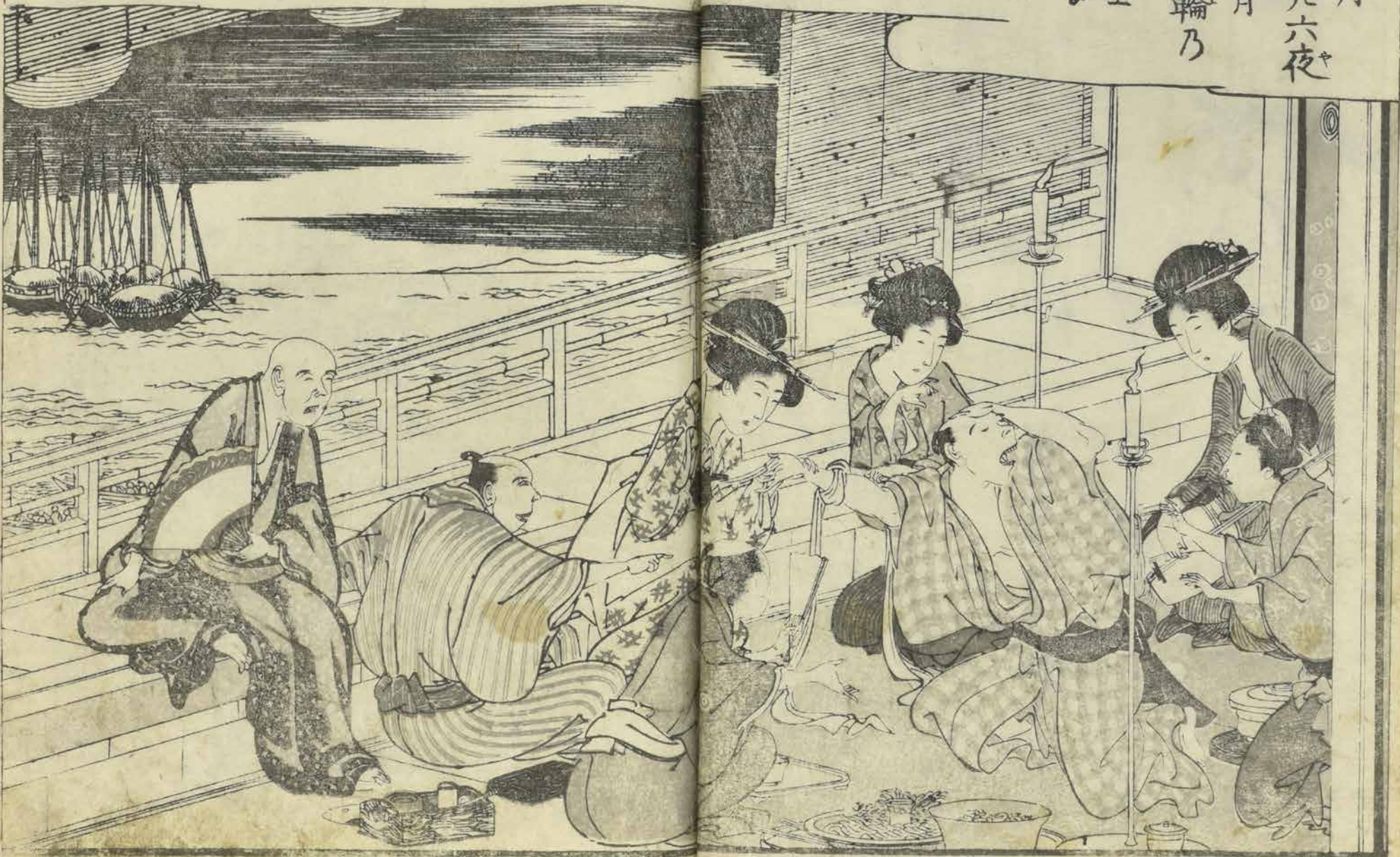
まを

舞
人

茶

者

多



八月
八幡赤

富岡の
放生會

氏子

より

奉

り



山中
二間

茶屋

珍物

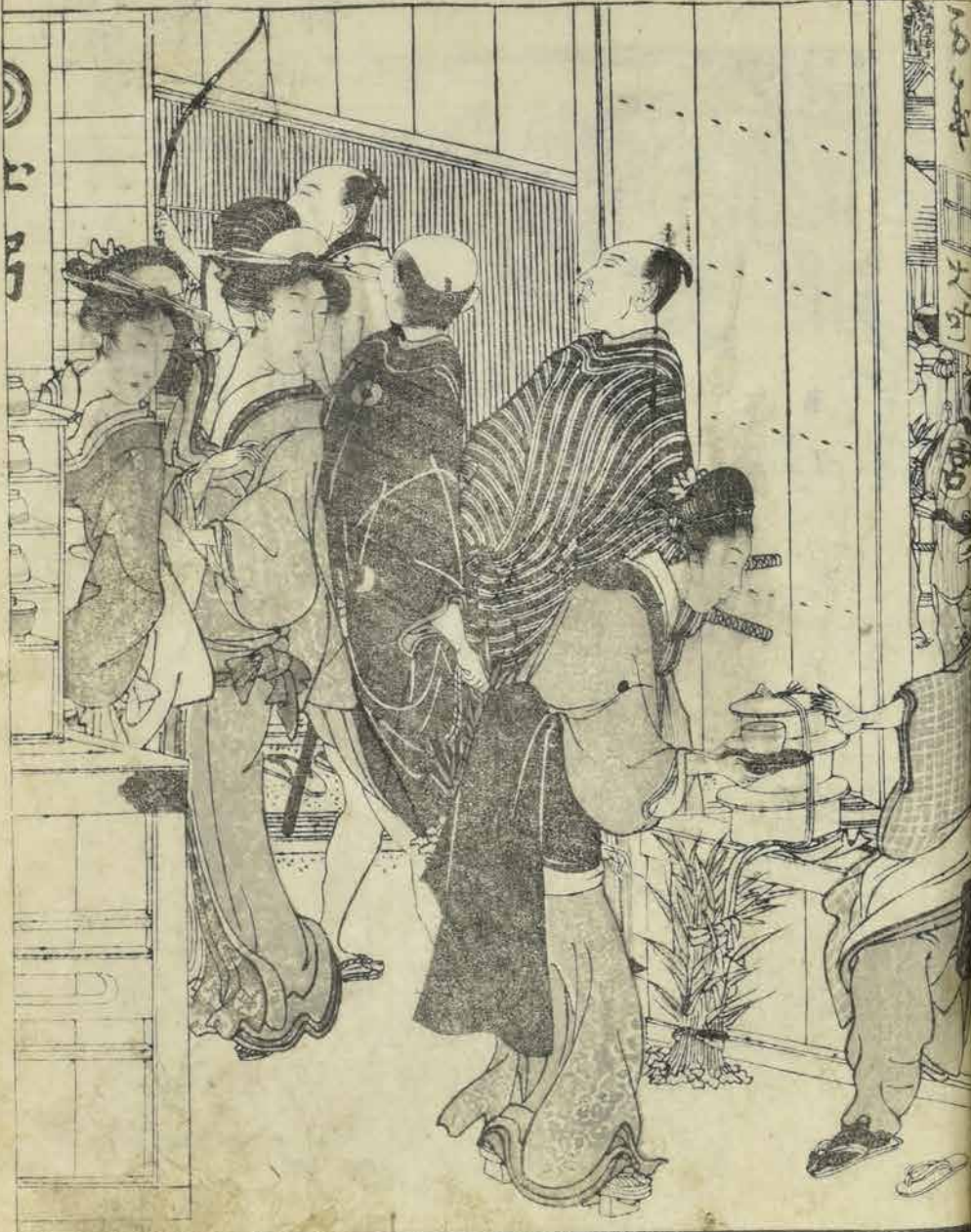
はく

生醉

多



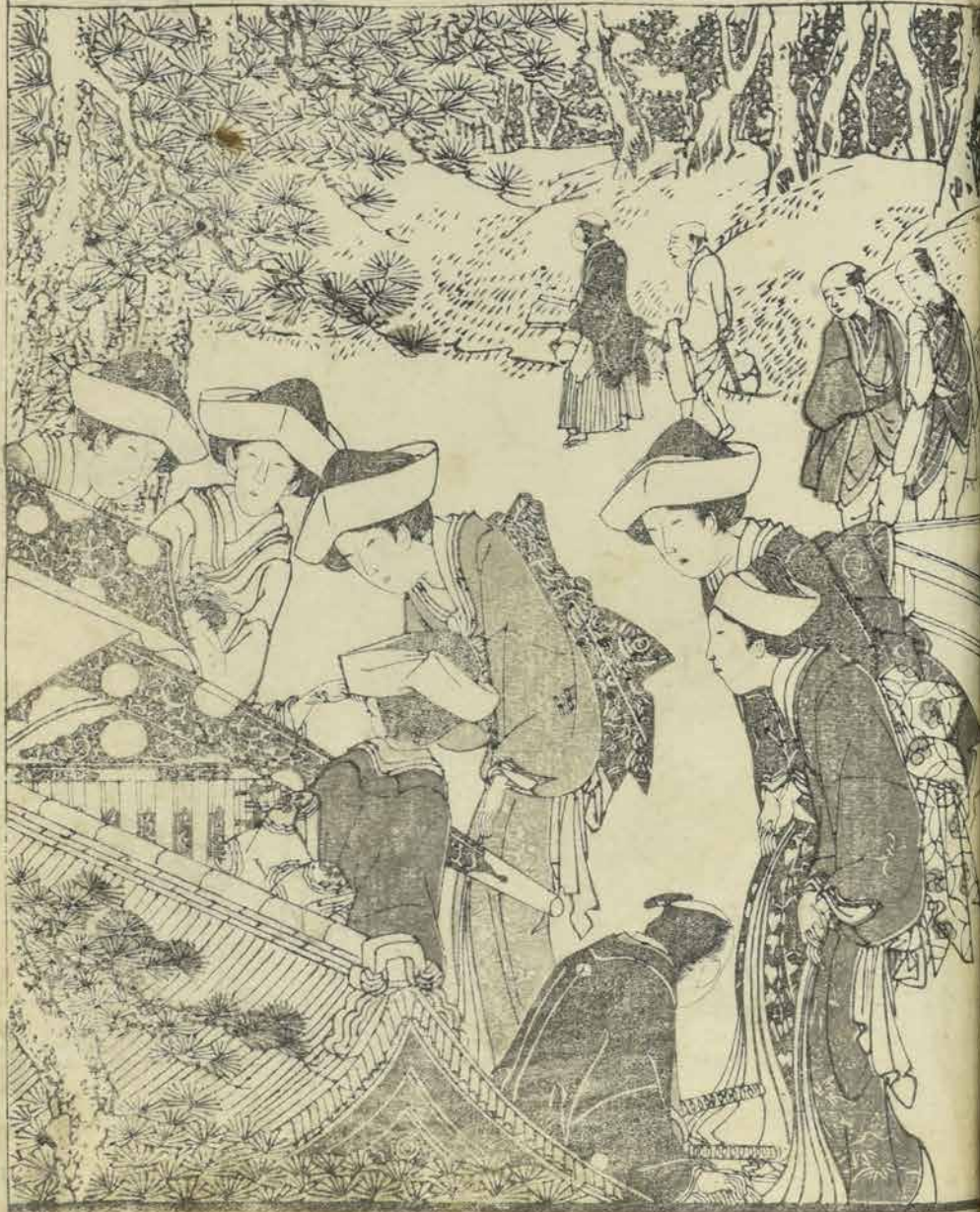
神燈 ちんどう 多し



九月 生妻市 芝神明の 御江戸 第一 長祭 ちんどう 売



縁組 御 小 人 多 し



上野の 大師 両 大師 當 月 御 本 坊 へ 給 せ

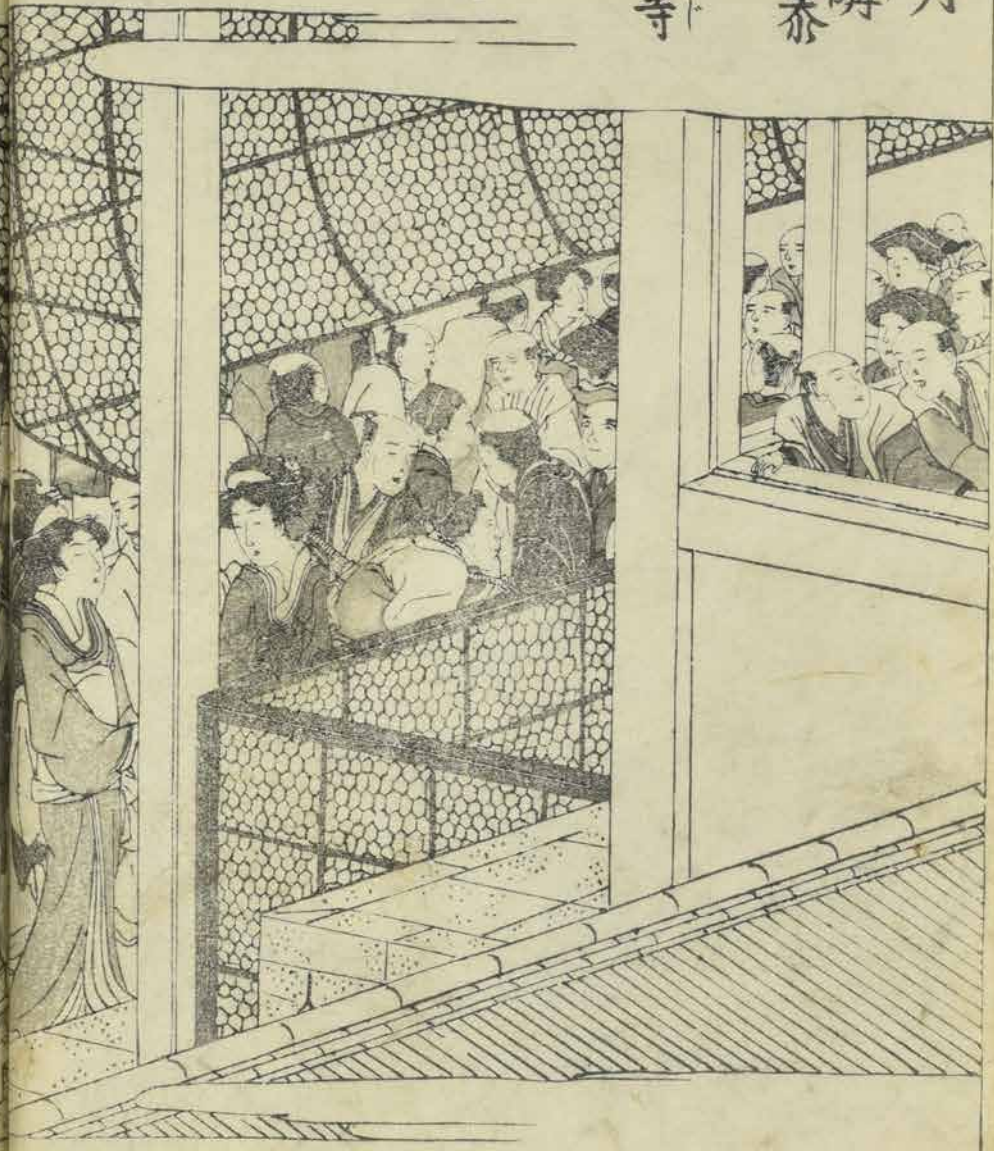
十月 大師 参



此時 同宗 婚姻 見の 多



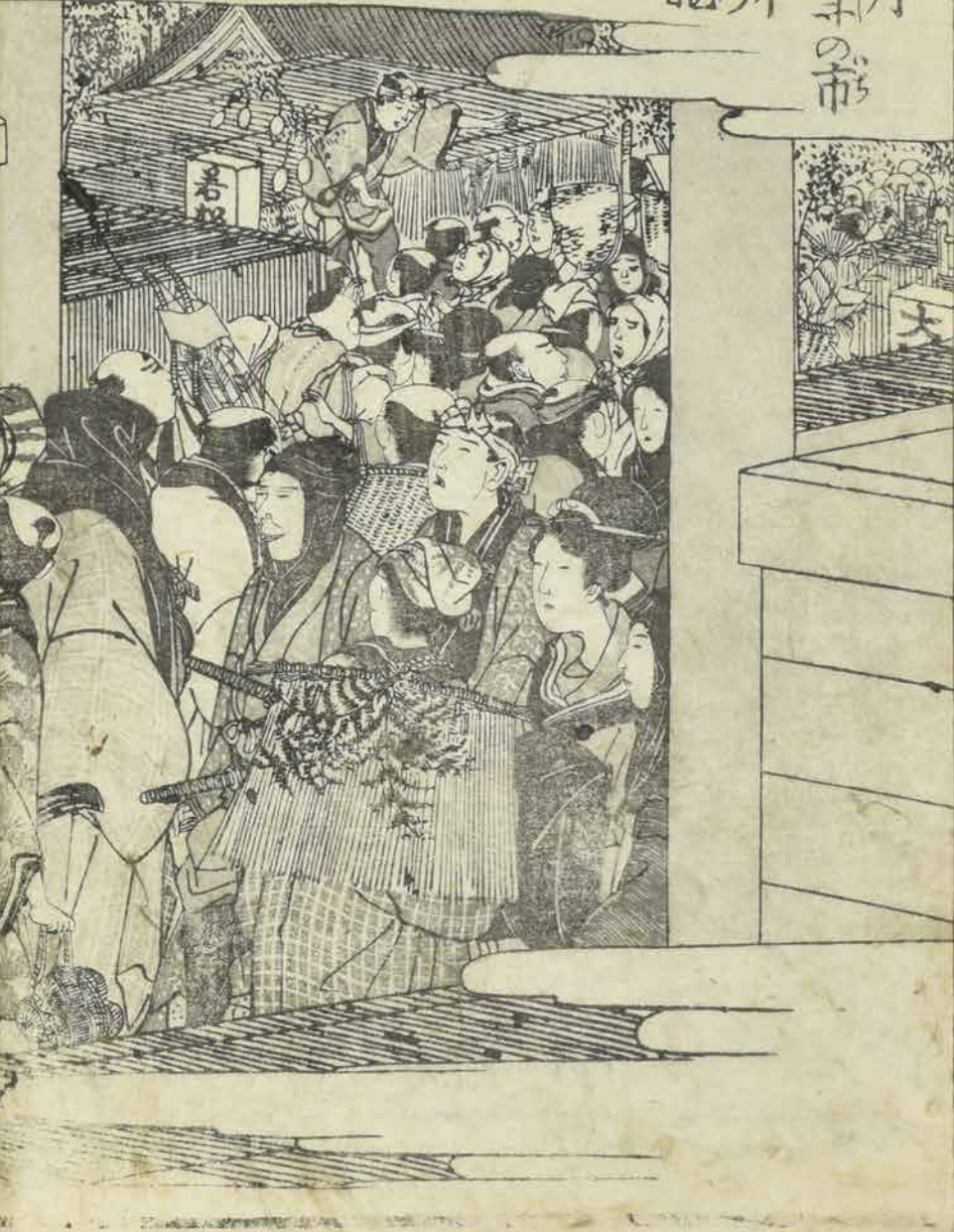
霜月 御講 赤 東西 本願寺 男女 花と 饅頭 けい



多
 商人金
 寶の市
 群集
 夕夜
 舟
 の



極月
 正月
 物賣
 年
 久
 山
 金龍
 淺州
 の市



云々と志して事なれども一年中成り少き

多し一秋何もと云若水屠蕪酒商人の廟賞

道中双六室舟鳥帽子きり大神樂初日の詣を

ハ其年の何き之當り神への恵方系り初宮

の日益之金杉牛込の鬼沙門天郊の日龜戸妙儀

山三日上野のあ夫沙谷中大黒寺の餅の湯つあ

歳は鳥おひそよあとの福ち馬春駒一鶴龜踊

後者のありざる何一自まで赤く年まで者の

機と只片神光の獨活の聲うらハ〜〜〜掃ひ扇

第まんらり買歩り吉原へ女郎の年終初衣

震四日より大黒舞八日、初の業師なり十日よ

新田大明神 同日虎の河門金帯比羅さる十

一日、新御もき帳登の中も書ハ多きも御達也免

の麻をり羽子だはよもまり頃十日若殿自越

十五日、小豆粥十六日、闇魔油の所くの山門

ひ〜〜〜なり奉公人の如とさびり廿日正月あび

講二十四日、愛宕まのり廿五日、圓光大師の御志
日、浄土宗の寺々、さんある二十八日、不動の坊
日、月、亀戸の栴廬、きき、金沢の松田の寺
見、江戸より遠く、あつより信濃の、三十三
日、あつる

二月二日、谷まへり、もつ年の、稲荷あり、王子
流、まへひい、まへ、及、まへ、町も、あつ、きき、寺々、も
あつ、まへ、の、作、り、物、地、と、あ、つ、まへ、この、し、ろ、中、傷

の、う、れ、版、を、箱、の、ま、へ、雷、の、と、まへ、百、社、ま、あ、つ、まへ
子、供、の、寺、入、社、り、の、海、ハ、龍、身、ま、あ、つ、まへ、八、日、月
事、あ、つ、まへ、ひ、び、ん、園、子、ま、あ、つ、まへ、牡丹、海、子
九、日、ハ、天、神、忌、日、セ、り、より、尾、張、町、十、軒、店、の、籠
の、見、世、あ、つ、まへ、かん、ま、あ、つ、まへ、六、日、あ、つ、まへ、あ、つ、まへ、見、六、桃、園
神、ハ、流、ま、あ、つ、まへ、ま、あ、つ、まへ、ま、あ、つ、まへ、ま、あ、つ、まへ

三月、八、日、の、ま、あ、つ、まへ、句、籠、の、ま、あ、つ、まへ、ひ、の、草、餅、あ、つ、まへ、酒
五、日、奉、ま、あ、つ、まへ、の、あ、つ、まへ、ま、あ、つ、まへ、時、佃、田、川、の、ま、あ、つ、まへ、ひ、ま、あ、つ、まへ

八日中山法華寺千部十五首、梅若十八日

淡茅の三社の神事廿日源川八幡山

川崎の左除大阿廿三日、芝神明の太神系

池と東の寺千部櫻八上野河比の寺御殿

山ちののゆり燈子東ぬく寺

四月を鹿戸佃の友杜丹屋きまは

見物八日釋迦の御たん生郊の心新茶

鼻の結海、那公たのゆりてい

り月屋よを祿のふくまに戸と面徳寺の

のやく筆子蝸着の松の森、田中船荷

れまのやまをるま十七日、増と寺馬るん

さんるん御免

五月獨歩はさるるとそのほやわ

那糎さうじ柏餅家く、葛藤とあき茶の

を請るより、日府中の御田極目天

角の有六日、葛藤湯を入、天明の初雪日

もよば蒼木賣（ひきこも）、引（ひきこも）きて鮎（あな）や圓（ま）島（ま）を蘆（あし）賣（うり）

二月朔日（きつ）男（おとこ）如（ごと）も頭痛（つぼう）の呪（まじ）をり鉢（はち）つゆつて

多（おほ）く入（い）る日（ひ）駒（こま）込（こ）富士（ふじ）糸（いと）あり三月（しがつ）を（を）か（か）つ（つ）る所（ところ）

の熊野（くまの）乃（な）ま（ま）月（つき）を（を）七（しち）日（にち）破（やぶ）園（えん）の天王（てんおう）す（す）月（つき）を（を）

中橋（なかつはし）よ（よ）小舟（こぶね）所（ところ）大傳馬（おほつづま）町（まち）りや立（た）神（かみ）田明神（ためがみ）

るん（るん）向（むか）ひ（ひ）り神（かみ）楽（ら）を（を）か（か）き（き）入（い）る（る）其（その）の（の）義（ぎ）前（まへ）

四（よ）谷（や）と子（こ）伝（でん）呂川（りくせん）を（を）十四（じゅうし）日（にち）水（みづ）所（ところ）の香（か）取（と）糸（いと）

十月（じゅうがつ）日（にち）山王（さんおう）の御（ご）祭（まつり）終（はつ）わ川（がわ）明（あ）神（かみ）と（と）如（ごと）く（く）生（な）ま（ま）り

十六日（じゅうろくにち）嘉祥（かしょう）喰（く）北（きた）四（よ）日（にち）何（なに）さ（さ）こ（こ）正（ただ）四（よ）萬（まん）さ（さ）る（る）日（にち）

青（あお）わ（わ）う（う）づ（づ）き（き）成（な）丸（まる）を（を）飲（の）み（み）由（ゆ）空（そら）積（つ）と（と）の（の）根（ね）と（と）ま（ま）る（る）

よ（よ）一（いつ）廿（にじゅう）日（にち）龜戸（かめと）の天神（てんじん）す（す）月（つき）を（を）七（しち）日（にち）北（きた）へ（へ）い（い）る（る）

夜（よ）見（み）世（よ）の始（はじ）り夕（ゆふ）納（な）冷（れい）の騰（た）舟（ふね）た（た）平（へい）々（々）切（き）ぎ（ぎ）つ（つ）の（の）大（おほ）

火（ひ）土（つち）周（しゅう）の入（い）る（る）餅（もち）空（そら）油（あぶら）揚（あげ）平（へい）々（々）官（くわん）寺（てら）よ（よ）と

用（もち）于（に）寶物（ほうぶつ）の内（うち）拜（を）り（り）七（しち）日（にち）石（いし）尊（そん）の（の）右（みぎ）月（つき）山（やま）

高（たか）人（ひと）圓（ま）扇（あふ）賣（うり）枇（ひ）杷（ぱ）葉（は）湯（ゆ）白（しろ）玉（たま）餅（もち）和（わ）巾（きん）敷（し）公（こう）太（たい）

菴（あん）入（い）の里（さと）芋（いも）納（な）大（おほ）刀（た）も冷（れい）水（みづ）う（う）り木（き）山（やま）丸（まる）ふ（ふ）布（ふ）す（す）の（の）道（みち）

西瓜水すいかみづ月つき夜よ夜よ夜よの神かみをを會あひ

七月しちがつのの原はら燈籠とうろう見物けんぶつ七しち日にち牽牛けんぎゅう織女おひのの糸いと

夜よももぎぎ井い戸と久くししひひ也やそそううめめんん十じゅう日にち觀音くわんおん四し茶ちや

六む日にち十三じゅうさん日にち若わ王子おうじのの神事かみじななびび草くさ布ふ精せい

矣やままのの里さと富士ふじ回まわ者もの石いし尊そん龜かめ山やま十じゅう六ろく日にちのの夜よ

日にち六む月げつ少すく室むろ回まわ者もの立た百ひゃく羅漢らかんのの大だい施せ我われ鬼き三さん

十じゅう日にち廿にじゅう六ろく夜よ高たか強かた羣ぐん集じふ

八はち月げつ約やく布ふ施せ奈な天てんのの角かく力りき命いのち吉原きちげん女にょ師し白はく

小こ神かみのの送おく巾きんたりたり練ねんのの齋さい八はち本ほん所ところのの夜よ

寺てら心しんががんんままのの里さと二に月げつととああのの一いち日にち十五じゅうご日にち詔みことごと

生なま會あひま所ところ八はち幡ばんのの冬ふゆ礼らい月げつ見みのの園おん子こ二十にじゅう四し日にち

藤ふじ沢さかのの関せき山さん忌い井い原はらよりより吉原きちげんのの儀ぎ

九く月げつ雲うん陽やう柔じゆうのの酒しゆ三さん高こうのの春はる日にちれれままつつるる十じゅう六ろく日にち

片かた瀬せのの羽は師し十じゅう三さん日にち後のちのの月げつ見み十じゅう号ごう八はち神かみ田で

明あき神かみ山さん王わう少すくかかくく自みづかたたのの里さと滋し谷やのの夜よ
見み十じゅう百ひゃくよりより芝しば神かみ明あきのの生なま美み市いち廿にじゅう六ろく日にち圓えん意いのの群ぐん

集しゆ赤蜻蛉あかとんぼ新蕎麥あらそば新酒あらしゆ足食あしけ砵び甘あま于やえ

またたねまるといふ月このつき海泉寺うみいずみ正燈しやうとうとわ茶見ちやみ

十月このつき上野かみのうのの雨あめ大分おほぶん御出坊ごしゆぼうと御入ごいり行ゆきるま十日このひと

矢口やぐちの新田あたらし北条きたじょう虎とらの御門ごもんの金かね鬼おに夜よ系けいりり六日このひ

より寺てら十夜じゆや十日このひ蓮宗れんしゆのお急おしゆもももも

廿八日ふはつにち麻布山あさふやまの報恩講ほうおんかう亥日いひ鳩はと用もち玄猪げんしゆの餅もち廿日ふにち

夷講あひまう宵月よひつきよりより徳とくよりより信濃者しんぬものの炭すす賣うり事こと

入いりののととのの役者やくしや附下つけさりのの系けいここ廿日ふにち積物つみもの

霜月しもづき朔しつ顔見かおみ世よききややももんん酉うしのの日ひ千作せんさくのの所ところ冬ふゆ

至いた六周むつしゆのの正月しんげつとと儒者にゆしや醫者いしや是こゝををつつももををるる法はふ事こと

八星はつせい条じょう六む善福寺ぜんぷくじのの延のび園えん子こ八日やちにち鍛冶かじややのの物ものいいこ

ままつつりり十じゆ五ごのの七しち五ご三さんののいいのの子こ然しかのの産う神かみままんんああ

廿四日ふじよにち大師おほし粥かゆ漬つけのの系けいままのの御講ごかう系けいりりををここ入

おんおんぢぢやや河勝かかつせせぎぎががゆゆさされれとと山陽さんやう事ことのの相あひ寄よ

世よの中なか猶なほ抄しやうもも飯櫃いひびんももこころろ久くををつつるる又また抄しやう寔じつををひひきき

十二月じふにがつ初日はつにちいいここのの降ふり八日やちにち月つきのの事ことををしし足あ十じゆ三さん日にちハ

燦々^{きらきら}の市^{いち}、沙^{すな}草^{くさ}を^をせんおん芝^{しば}の^のこ又

近年^{きんねん}八^{はつ}神^{かみ}田^{でん}の^の明^{めい}神^{かみ}津^つ川^{がわ}八^{はつ}幡^{ばん}芝^{しば}神^{かみ}明^{めい}平^{へい}川^{がわ}天^{てん}神^{かみ}ぞ

も市^{いち}を^をな^なげ^げ廿^{にじゅう}の^の日^ひより^{より}餅^{もち}を^を流^{なが}す^す年^{とし}越^こす^すの^の氏^{うぢ}

神^{かみ}ま^まの^の家^け松^{まつ}子^こり^りた^た拂^{はら}ひ^ひは^は大^{だい}神^{かみ}禾^こ白^{はく}

木^き賣^うの^の聲^{こゑ}ハ^ハ七^{しち}社^{しゃ}と^と梅^{うめ}干^{かん}物^{もの}巨^{こゝろ}福^{ふく}山^{さん}椒^{しやう}輪^{りん}大^{だい}根^{こん}

馬^{うま}附^{つけ}牛^{うし}房^{ぶどう}齒^はぬ^ぬけ^け親^{おや}に^にが^があ^あひ^ひ夢^{ゆめ}ハ^ハい^い中^{ちゆう}あ^あり^り

噂^{うわさ}ハ^ハ王^{おう}子^この^の道^{みち}こ^この^のり^りハ^ハ外^{がい}常^{じょう}の^のま^まり^り所^{ところ}羽^は田^{でん}

の^の毎^{まい}天^{てん}古^こ川^{がわ}業^{わざ}所^{ところ}矢^や口^{くち}の^の新^{しん}田^{でん}碑^い文^{ぶん}谷^やに^に王^{おう}貞^{てい}大^{だい}

沃^{わく}の^の九^く昌^{しやう}佛^{ぶつ}目^め黒^{くろ}ち^ちん^んこ^こ蛸^{しやう}茶^{ちや}師^し祐^{すけ}天^{てん}寺^じ橋^{はし}ヶ^が谷^や

不^ふ動^{どう}志^し物^{ぶつ}也^やの^の金^{かね}王^{おう}長^{ちやう}谷^や寺^じ々^々見^みお^おん^ん仙^{せん}寿^{じゆう}院^{いん}の^の

庭^{てい}龍^{りゆう}岩^{がん}寺^じの^の松^{まつ}千^{せん}駄^だヶ^が谷^やの^の八^{はち}幡^{ばん}ら^らや^や十^{じゅう}二^に艘^{そう}

水^{みづ}稻^{いなり}荷^{かり}堀^{ほり}の^の内^{うち}の^の相^{さう}師^し音^{おん}羽^はの^の護^ご國^{こく}寺^じ雜^{ざつ}子^し

ヶ^が谷^やの^の鬼^{おに}子^こ母^ぼ神^{かみ}川^{がわ}口^{くち}の^の善^{ぜん}光^{こう}寺^じ三^{さん}川^{がわ}々^々ま^まれ

不^ふ動^{どう}日^{にち}々^々の^のま^まら^ら漬^{つけ}ヶ^が池^{いけ}々^々あ^あら^らさ^さき^きい^いあり

梅^{うめ}若^わ山^{さん}王^{おう}白^{はく}髮^{はつ}明^{めい}神^{かみ}牛^{うし}御^ご前^{ぜん}三^{さん}圍^ゐ秋^{あき}葉^は柳^{りゅう}

鳩^{はと}妙^{めう}見^{けん}吾^{われ}妻^{さい}の^の歳^{さい}半^{はん}田^{でん}い^いより^{より}五^ご年^{ねん}井^いの^の聖^{せい}天^{てん}

和歌よ讀み武藏野塘無霧玉川の里荒蕪の
 芝嶋白の園は双うを待乳山は忍島隅田川の都を籠
 原里園屋の里酒の継橋も兒奈の社名野を色れ
 松おの志郡一本すき金萩橋洞は武藏野の南すき
 公時澄しき鳥叢滋谷の金玉稻毛の二郎秩父の首之
 熊谷直実つゞきは望の剛者三つうのつゞき
 しまを具差よふとあやめんやうらふかきとくれ
 波濤入るるもつゞきよつゞき

歌川一桺齊豊廣画

南拙笑梵満人戯言

剗刷氏山口清藏

来春出板

二冊

後編 繪本東童郎

御江戸芝神明前三島町新道

甘泉堂和泉屋市兵衛



昭和六年一〇月三日寄託

新書